

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

NHKの朝の連続テレビ小説「あさが来た」が注目を浴びている。「白岡あさ」のモデルは、大阪を拠点に活動した実業家の広岡浅子さんだ。その生涯を描

いた古川智映子さんの「小説・土佐堀川」は、江戸後期から、さまざまな困難を乗り越えて成長する「あさ」と、その家族らを通して、社会貢献する物語だ。実話の人物・企業・団体名などを改名して大幅に脚色、フィクションとしての制作。幕末から大正の、日本人の女性が表舞台に出る事が無かった時代に、企業経営者として、銀行や生命保険、更には女子大学を日本で初めて作る、女性の活躍が視聴者の好感を呼ぶのだらう。

更に話題は、挿入歌の「365日の紙飛行機」だ。作詞は、秋元康さん。作詞家だけでなく、放送作家、プロデューサー、映画監督、漫画原作者など幅広い分野で活躍。小泉今日子の「なんちゃってアイドル」、美空ひばりの「川の流れるように」や、女性グループの「お

一日が、笑顔でいられるように、そっとお願いした。時には雨も降って、涙も溢れるけど、思い通りにならない日は、明日頑張ろう。ずっと見ている夢は、私がおう一人いて、やりたいこと好きなよう

365日……何とすてきな詩だと思った人も多いはずだ。学校では、朝礼での合唱、卒業式に、先輩卒業生に贈る歌としての練習や、カラオケでは、高齢者が、全員起立して大合唱との明るい話題

地方活性化には、女性が活躍できる環境が大切だと考えてみませんか

にゃん子クラブ、「AKB48とその姉妹グループ」、「乃木坂46」のプロデューサーや作詞は社会現象を生んでいく。自由に見える夢。人生は紙飛行機、願いを乗せて飛んで行くよ、風の中を力の限り、ただ進むだけ、その距離を競うより、どう飛んだか、どこを飛んだのか、それが一番大切なんだ、さあ心のままに、も聞かせてくれる。国も多くの女性が輝ける社会を目的に、積極的な情報を発信している。しかし、特に地方の現場では、女性の活躍の場は限られているのが実情だ。誤解を生じるかもしれない

が、男性と同じ仕事を期待するのでなく、時には、女性の能力を十二分に生かしたポジションで、積極的に女性を光り輝かせる仕事の仕方もあるべきだろう。また、人口減社会で地域活性化を展開するために、女性自らの積極的な地域活動への参画と、活躍を願ってやまない。(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



「あさ」の生き方に関する書籍が並び、女性の活躍に注目されることは良い事だ。